

三田の里山保全と目指す将来 一三田市里山保全課

三田の里山の生物多様性を守り、次世代に引き継いでいくためには、動植物の生息・生育場所を良好な状態で維持・管理することが不可欠です。

三田市では平成31年(2019年)1月に「三田市里山と共生するまちづくり条例」を制定し、里山と共生するまちづくりに取り組んできました。

里山林整備で伐採した木を薪に、竹を竹チップや竹炭、土壌改良剤(竹パウダー)に製品化するなど、循環利用に取り組む方を支援する「資源循環型里山林整備事業補助金」の交付実施や、ブイブイの森の保全体験学習「ブイブイの森まちなか里山セミナー」、市の天然記念物に指定されている貴重な生態系が残る皿池湿原の保全ボランティア「守り人」の養成講座の開催など、担い手育成の取り組みを実施しています。

また、里山保全の意識を次の世代につなげるため、市内の小学生を対象に「緑の少年団」を結成。自然や生物多様性を学ぶ体験活動や緑の募金への協力、里山ハイキングなどの野外活動も行っています。

里山の多様で美しい自然環境、景観、及び生活文化の価値をすべての人が共有し、協働して守り、育み、さらに魅力を高めることにより、里山からの恵みがあふれ、人と自然が共生するまちづくりを目指します。



皿池湿原



ブイブイの森セミナー 保全体験学習

里山保全課では、情報紙「さんだ里山めぐり」を発行し、市役所ロビー、市民センター、JR三田駅などで配架しています。右の2次元コードからバックナンバーがチェックできます。今号でご紹介できなかった里山保全団体も紹介されていますのでぜひご覧ください。



シニアのための いきがい応援セミナー 無料

「骨カルシウムセミナー」

試食あり

雪印メグミルク(株)食育担当栄養士が骨の役割やカルシウムの働き、1日に摂りたいカルシウムの量をお伝えします。乳製品の使い方やレシピまで公開!



「消費者トラブルを知って、被害を防ごう」

消費者生活相談員が、いざという時に慌てず被害を未然に防ぐための対策をアドバイスします。



6月26日(水)

時間：14時～15時30分

定員：30名

申込：6/13(木)まで

申し込みフォーム



7月25日(木)

時間：14時～15時30分

定員：20名

申込：6/20(木)～7/15(月)

申し込みフォーム



場所：まちづくり協働センター 講座室 対象：おおむね55歳以上の市内在住者

申込：住所・氏名・電話番号・年齢を上記の2次元コードまたは窓口、ハガキ、FAXのいずれかで以下までお申し込みください。

〒669-1595 三田市三輪2-1-1 三田市役所 本庁舎4階 いきがい応援プラザ～HOT～
電話：079-559-6800 FAX：079-563-7776

※応募者多数の場合は抽選、応募者が少ない場合は中止とさせていただきます。

※参加の可否については申し込み締め切り後、文書でお知らせします。

発行・編集：いきがい応援プラザ～HOT～

三田市役所本庁舎4階 高齢者支援課

Tel:079-559-6800 Fax:079-563-7776

メール:ikigai_ouen@city.sanda.lg.jp ホームページ:https://www.hot-sanda.com



24い高8-023A4

いきいきと輝く
55歳以上のための

ほっとHOT通信

感想をお寄せください

第36号
令和6年6月



特集：さんだの里山を守るシニアたち

高平ナナマツの森を保全整備する「三田里山どんぐりくらぶ」



「三田里山どんぐりくらぶ」は、高平のナナマツの森を保全整備するボランティア団体。26年前に三田市が主催した「森の学校」という講習を受けた人が立ち上げた。今のメンバー14名はフラワータウンや市外から来ている。今日の活動は主にまき割。運搬係がまきを有馬富士共生センターに運び、残りのメンバーでまき割に精を出す。伐採した木でまきをつくり、炭焼窯で炭をつくるのがくらぶの特徴で、地元の小学生や幼稚園児を対象とした体験学習でも一緒に炭焼きをしている。

「子どもたちは、みんな嬉しそうにいきいきとしていますよ」と会長の水谷さんは笑顔で教えてくれた。

随所にみられる思いやり

水谷会長にナナマツの森を案内してもらった。散策道は歩きやすく整備されており、伐採された倒木、丸太を束ねて作った渡し橋、土台から施工して設置された手作りベンチなど、森を守る思いと、訪れる人達への優しい気遣いが随所にあふれている。森の中を歩いていると気持ちが癒されていった。

里山保全をつづける楽しみ

この活動に参加している理由をメンバーに尋ねてみた。「自然が好きだから」「健康のため」「社会に何か還元したいと思って」「体を動かすのが好き」そして、全員が「楽しいから」と口を揃えて答えてくれた。ここのメンバーはみんな明るく、楽しい雰囲気ばかりが伝わってくる。

いちばん活動歴が長い西さんは「しばらく一緒に活動してもらえれば、自然が好きで人であればやめられなくなると思います。嫌だったらみんなりタイヤしてますよ。まきを持ったり、しゃがんだり、それが全部身体のためになっているので、すごく健康にもいいと思う」と力をこめて語ってくれた。

メンバー募集中



三田里山どんぐりくらぶ 問い合わせ Tel.070-4385-2837

中央公園の生物多様性を保全

～希少植物を生育し、野生動物を守る～「ごもくやさん」

ウッディタウンの住宅街にある、広々とした自然豊かな中央公園。市民憩いの場として人気のウッディタウン最大の公園である。しかし、ニュータウン開発前は、うっそうとした常緑樹に覆われ、下草が藪と化し、荒れた暗い森であった。そんな森がなぜ、現在のように安心して集える自然豊かな公園になったのか？

その立役者が、中央公園の保全活動をするボランティアグループ「ごもくやさん」だ。名前の由来は「5つの木」＝「森林」。森林を守るため、中央公園を中心に里山の保全活動に取り組んでいる。現在19名のメンバーはほとんどがウッディタウン在住のシニア世代だという。

中央公園の自然を守るシニアたち

なぜ里山の保全活動をすることになったのか？メンバーに活動のきっかけを聞いてみた。「普段山歩きをしているので誘われた」「公園整備に関心があり、70歳で会社を辞めてから始めた」「公園で遊ぶ孫や利用者のために」など。身近な興味や関心から自分にできることを見つけ、始めたボランティア活動。この活動を通して、多くの人が知らない野生動物に出会えることがあるという。意外にも中央公園にはタヌキやキツネ、アナグマ、テンといった野生動物が暮らしているようだ。



「動物撮影：中田一真」

大事にしているのは「生物多様性」を守ること。「森に光が射し込むよう、樹木を適度に間伐する。下草も刈り小さな弱い植物が育つ環境をつくるのが基本」と代表の上村さん。人の手を加えることで、隠れていた希少植物がどんどん姿を現し、野生動物も生息しやすい環境となる。

中央公園に花を咲かせる、希少植物「ササユリ」

中央公園の整備をする原点となったのが、希少植物「ササユリ」の保護と育成だ。減少するササユリを自分たちの手で増やそうと活動を始めた。15年前には30株ほどしか咲いていなかったササユリも、今や300株を超える。「自分たちで手入れをした里山に、花が咲くようになったのが嬉しい」とメンバーは言う。ササユリは例年5月末～6月中旬頃、中央公園テニスコートの東側にある「ササユリ保護・育成地」で見られる。早朝や夕方に行くと甘く爽やかな香りが楽しめるそうだ。



「植物撮影：中田一真」

やったことの成果が見えるおもしろさ

「自分たちの活動の成果が見えるのが一番おもしろい」「安全できれいになった公園で遊ぶ子どもたちを見ると、この活動をしてよかったと思う」とメンバーは嬉しそうに語ってくれた。中央公園の自然を守る、影の立役者「ごもくやさん」は未来に光を射し込んでいる。

メンバー募集中

ごもくやさん 問い合わせ Tel.090-3616-8154

緑を次の世代に残したい

～有馬富士公園の里山を守る～「緑の環境クラブ」

県内最大の都市公園である有馬富士公園に隣接する「有馬富士森林公園」。ここの保全活動をするのが「緑の環境クラブ」だ。この日は、ササ刈りから始まり、溝の落ち葉や土砂をとり除く作業、倒木や登山道にせり出した木の枝の伐採に汗を流した。有馬富士登山者や市民が安全に利用できるのはこの地道な活動があつてのことだ。

創立27年目を迎えた同クラブの代表、北田香菜子さんとメンバーの方々にお話を聞いた。北田代表は、緑をこれ以上破壊せず、次の世代に残すためにできることはないかと考えクラブを発足した。「ボランティア精神に富んだ仲間が集まり、サポートし合っているから活動が長続きすると思う」とまっすぐに語ってくれた。



水の流れをよくするため、水路に溜まった落ち葉を拾う



落ち葉がきれいになったら水路に溜まった土砂をとり除く



利用者の安全や生態系を守るため倒木や枯れ木を処理する

定年退職後に見つけた、私たちの生きがい

現在、平均年齢70歳、27名のメンバーで構成。最初から里山を守るという強い意識を持っていたわけではない。ほとんどのメンバーが、定年退職を迎えた時に何かやりたいという漠然とした想いから参加した。最初は洗剤を使わずに石鹸や炭で洗濯をしたり、EM菌を使って生ゴミを肥料にする活動をしていた。里山の景観保全活動の研修を受けたことをきっかけに、自然環境の中で気持ちよく里山整備のボランティアができることに喜びと感謝を感じ、長く活動を続けて現在に至る。「定年退職をしてから喪失感があったが、今は社会奉仕ができていて、生活にも張り合いが持てるようになった」とメンバーは語ってくれた。



「とにかく外へ出かけよう！」

有馬富士登山者からの「ありがとう！」「お疲れさま！」という声がかになってきている。誰かのためになって自分も満たされる。里山の整備はそんなボランティア活動だ。最後にメンバーから同世代の読者に向けたメッセージをもらった。「とにかく外へ出かけよう！広々とした里山の空気をいっぱい吸って、人と話せば気が晴れる！」

メンバー募集中

緑の環境クラブ 問い合わせ Tel.079-562-3493